高知県の地震

目 次	
高知県の地震活動 震央分布図及び断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
地震概況	1
高知県で震度1以上を観測した地震と各地の震度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
高知県で震度1以上を観測した地震の震度分布図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
地震一口メモ 緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2

- ※「高知県の地震」は月1回発行するもので、高知県及びその周辺の地震活動状況をお知らせすると共に、適宜、社会的に関心の高い地震について解説します。また、「地震一口メモ」で地震防災知識等の普及に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- ※この資料の震源要素及び震度データは、再調査された後に修正されることがあります。
- ※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、EarthScope Consortiumの観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

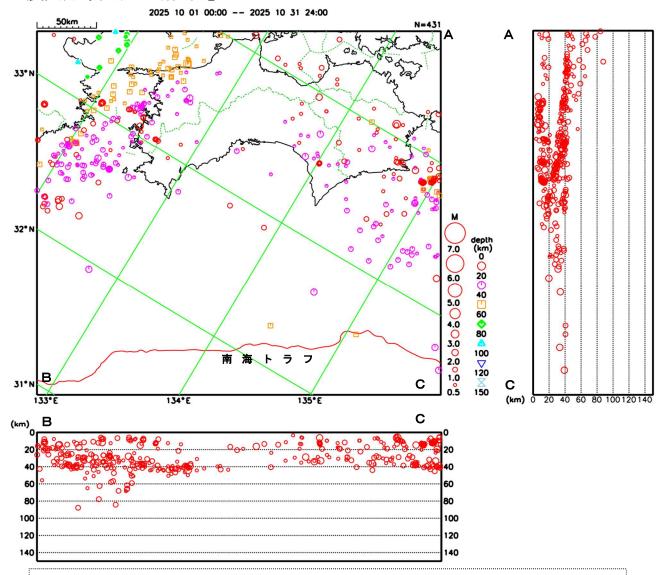
2025年(令和7年)10月

高知地方氨象台

高知県の地震活動

「震央分布図及び断面図」

(2025年10月1日~10月31日)



震央分布図では、地震の規模を示すマグニチュード(M)はシンボルの大きさで表しています。震源の深さはシンボルの形と色を深さに応じて変えて表しています。右上の「N」は図中に表示しているシンボルの数(地震の回数)、右の「depth」は地震の深さの凡例を示しています。

断面図(右図及び下図)は、震央分布図範囲内の地震の北北西-南南東(A-C)方向断面図(右)と西南西-東北東(B-C)方向断面図(下)を表し、それぞれの地震の震源の垂直分布を表しています。

「地震概況」

2025年(令和7年)10月に、高知県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震はありませんでした(前月は0回)。

【その他、津波警報等の発表状況】

10日10時43分(日本時間)、フィリピン諸島、ミンダナオの地震(Mw7.4、Mwは気象庁による)により、高知県のほか、北海道から沖縄県にかけての太平洋沿岸等に津波予報(若干の海面変動)を発表しました。

「高知県で震度1以上を観測した地震と各地の震度」

2025年10月

この期間、高知県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震はありませんでした。

「高知県で震度1以上を観測した地震の震度分布図」

2025年10月

この期間、高知県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震はありませんでした。

「地震一口メモ」

緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加について

気象庁では、令和7年10月15日から、国立研究開発法人防災科学技術研究所が高知県沖から日向灘に整備した「南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)沖合システム」の地震観測データの活用を開始しました。これにより、N-net沖合システムが展開されている高知沖から日向灘にかけての領域付近を震源とする地震に対し、緊急地震速報(警報)の迅速化や精度向上が期待されます。

※図表等を含む、より詳細な内容については、下の青囲内の上部 URL から報道発表資料をご参照ください。

○南海トラフ海底地震津波観測網(N-net)

N-net は高知県沖から日向灘にかけての海底に展開された地震津波観測網で、「沖合システム」、「沿岸システム」の二つのサブシステムから構成されています。二つのサブシステムは、「沖合システム」、「沿岸システム」の順に、令和6年6月、令和7年6月に敷設が完了しました。各サブシステムは、観測ノードと呼ばれる 18 個の観測点がケーブルで繋がれ、高知県室戸市及び宮崎県串間市の二つの陸上局で陸揚げされています。各観測ノードには地震計や津波計(水圧計)が搭載されており、リアルタイムに 24 時間連続で地震観測データと津波観測データとを取得できるようになっています。

ON-net による観測データの活用について

気象庁では、令和7年10月15日から、N-net「沖合システム」の地震観測データを緊急地震速報に活用し始めました。一方、N-net「沖合システム」の津波観測データについては、今回の地震観測データの活用に先駆けて、令和6年11月21日から気象庁が発表する津波情報等へ活用されています(※令和6年12月の高知県の地震の一口メモ参照)。このように、地震観測データと津波観測データとで、気象庁による情報発表への活用開始タイミングが異なることとなりましたが、これは、データの品質管理など、情報発表へデータを活用するために要する準備期間が両者で異なったことに起因しています。

今後、気象庁では、令和7年6月に整備が完了した、N-net「沿岸システム」の地震・津波の観測データについても情報発表等に活用するための取り組みを進めていく予定となっています。

緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加 についての報道発表資料(気象庁ホームページ)

https://www.jma.go.jp/jma/press/2510/08b/20251008_N-net.pdf

定期刊行物 高知県の地震(高知地方気象台)

https://www.data.jma.go.jp/kochi/kankoubutsu.html